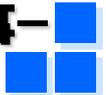




2014年の上期回顧と2014年の下期の展望

-どうする日伯関係-ビジネス環境改善に向け、いま為すべく事-



運輸サービス部会 森田 透

2014年8月21日

- ・ 物流
- ・ 構内物流、機工、整備
- ・ 海運
- ・ 航空貨物
- ・ 航空旅客
- ・ 旅行、ホテル
- ・ 通信、IT



物流業界

2014年上期回顧

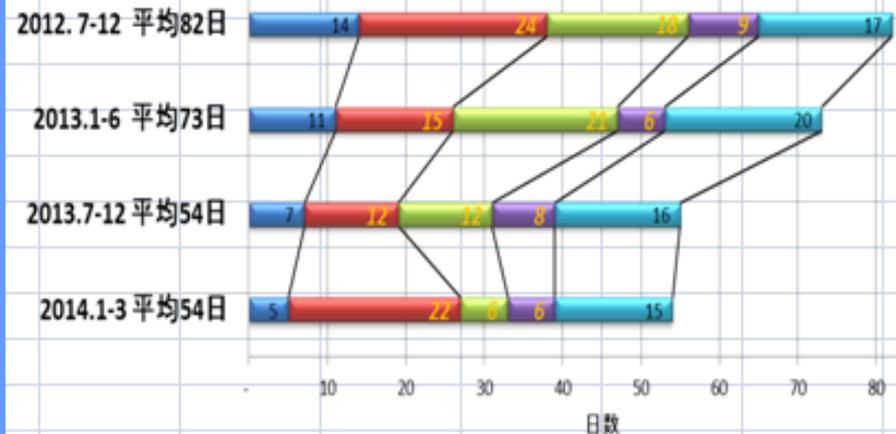
- ・ ワールドカップ開催に対するゼネストなどによる物流アクセスへの影響が懸念されたが、目立った影響は発生しなかった。
- ・ Santos港における新港湾ターミナル稼働により、ターミナルでの混雑は緩やかではあるが、緩和に向けて進んでいるものと感じ取れる。

2014年下期展望

- ・ RODO・ANEL(外環状線)の南、東部分が完成、今後この地域への企業進出が活発になると見込まれる。
- ・ 内陸部からの農産物輸出におけるサントス港への一極集中による混雑緩和策として、北部・東北部の港からの輸出ルート策定計画がある。

W杯の影響は、物価高、給与関連の賃上げ要求がインフレ以上に行われたマイナス面が多く、景気停滞の為に厳しい経営環境が待ち受けている。

海外引越 サントス港到着～お荷物配達までの所要日数



構内物流

2014年上期回顧

- ・ 鉄鋼の国内需要が自動車などの不振、輸入鋼材増加により低下している為に、協力会社に対しての更なるコスト削減要求があった。

2014年下期展望

- ・ 製鉄所の協力会社に対するコスト削減要求は引続き継続。
- ・ 同業他社との競争も継続的に激化する予想。

製鉄所の協力会社として、顧客製鉄所と同スタンスでのコスト削減に向けての強力な取り組みが必須である。

世界の鉄鋼メーカーの粗鋼生産量順一覧

1:アルセロール・ミタル・ルクセンブルグ(96)	9:首鋼集団・中国	(32)	
2:新日鐵住金・日本	(50)	10:JFEスチール・日本	(31)
3:河北鋼鉄集団・中国	(46)	11:タタ・スチール・インド	(25)
4:宝鋼集団・中国	(44)	12:山東鋼鉄集団・中国	(23)
5:武漢鋼鉄・中国	(39)	13:USスチール・米国	(20)
6:ポスコ・韓国	(38)	14:ニューコア・米国	(20)
7:江蘇沙鋼集団・中国	(35)	16:ジェルダウ・ブラジル	(19)
8:鞍山鋼鉄集団・中国	(34)		

*(カッコ)の粗鋼生産量の単位は百万トン。順位は2013年時点。



ブラジル企業:ジェルダウは14位⇒16位、ウジミナスは40位⇒49位にシェアダウン

海運業界

2014年上期回顧

- ・ ブラジル全体のコンテナ輸出入量は前年同期比微増。
- ・ そのうちアジアとのトレードは、ブラジルの対外貿易の中での比重が高まっている。
- ・ 鉄鉱石を運ぶケープサイズの傭船料は市場暴落した昨年比1万ドル以上高く推移。
- ・ 一方パナマックスは大豆の出荷最盛期を終えた3月以降、傭船料はじりじりと値を下げた。
- ・ サントス港では2つの新港湾ターミナル稼働により、ターミナル内での混雑は緩和されつつある。▶
- ・ サントス港の水深は浚渫作業により約30cmほど深化、コンテナ船の最大船型(15,000TEU)の入港には不十分なレベル。(現状の最大船型は9,000TEUで入港時の水深を調整して入る)
- ・ コンテナ船の大型船投入による供給増が貨物の増加ペースを大きく上回り、競争環境は激化、運賃下落が進んだ。

2014年下期展望

- ・ コンテナトレードは通常であれば年後半に掛けて荷動きの増加が見込まれるが、今年の伸び率は緩やかなものになると推測。
- ・ ケープサイズ船市況は6月に入ってから下落傾向になっているが、年後半に向けて鉄鉱石出荷量が増加してくれば市況反発の可能性あり。
- ・ サントス港にて更なる浚渫作業が行われる予定だが、従来同様に時間が掛かる恐れあり。
- ・ 貨物輸送需要の伸び率次第ではコンテナ船の配船調整等が行われる可能性あり。
- ・ 年後半の需要期に向けコンテナ運賃の修復を期待。

コンテナ船の当該航路での需給バランスの乱れにより、業界の状況も厳しさを増し、今後の傾向次第ではサービスの合理化が進む可能性ある。

航空貨物業界

2014年上期回顧

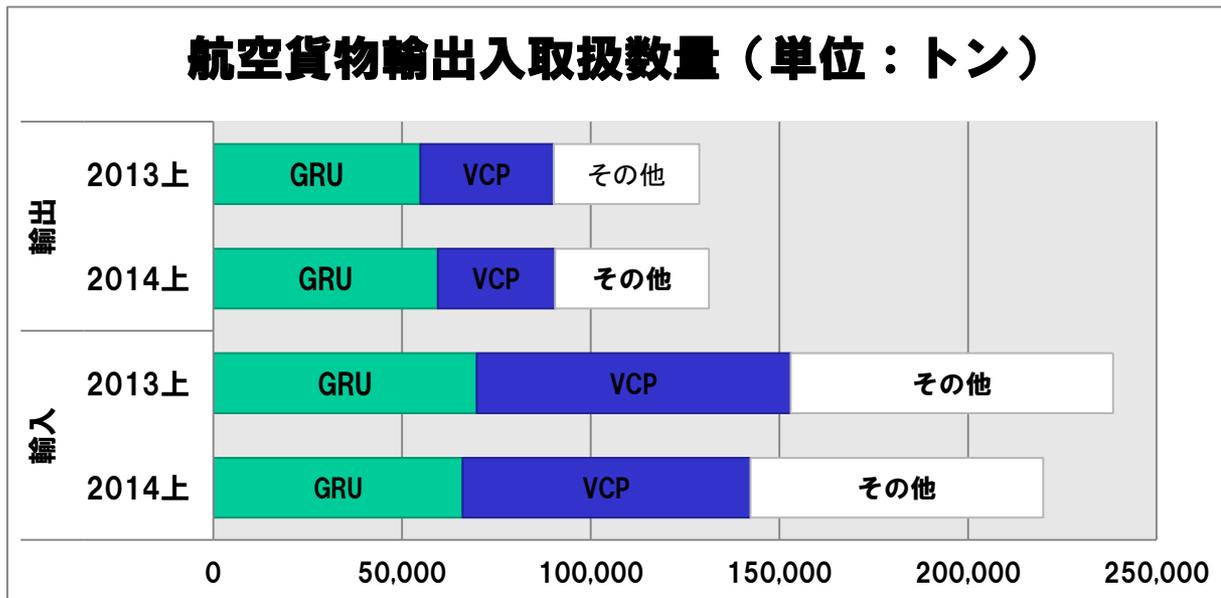
- ・ 輸入総数量は対前年比7.8%減 生産部材の輸入量が減少した。
- ・ 輸出総数量は対前年比1.9%増。

2014年下期展望

- ・ 8月よりGRU空港のタリフが上がったことにより、他空港も追随する可能性有り、物流コストの上昇が懸念される。

空港の民営化が進み、インフラの改善とリードタイムの短縮を期待する。

航空貨物輸出入取扱数量（単位：トン）



民営化された空港

- ・ VCP
- ・ GRU
- ・ BSB
- ・ GIG
- ・ CNF

航空旅客業界

2014年上期回顧

- ・ **国内線** : 堅調、W杯 = 運賃高等で旅客敬遠でW杯需要は相殺状況。
運行状況: W杯中は路線網30%拡大、TAM ,GOL , etc で期間中77,200便運航、定時出発率90%を達成し定時性維持の目標達成。
- ・ **国際線** : 堅調、W杯期間中利用減が予想されたが、大きな影響なし。
- ・ **空港インフラ**: GRU空港 TC-3 国際線ターミナルとして供用開始。▶

2014年下期展望

- ・ **国内線** : 総座席減少するが、旅客数増加で需要堅調予想。
- ・ **国際線** : GRU TC-3による機材大型化等で、下期も堅調な需要と予想。
- ・ **空港インフラ** : GRU TC-3利用航空会社増、ボーディング・ブリッジの設置数。増加による旅客利便の向上が見込まれる。
- ・ **航空業界** : 機材大型化、増便の検討が進められている。

課題

「空港=市内間アクセスの改善」

「離発着効率管理による便数増加」

「国内線=国際線の乗継利便性の向上」

旅行・ホテル業界

2014年上期回顧

- ・ 国内線売上 : 前年同期比 約7%増。
- ・ 国際線売上 : 前年同期比 約2%増。
- ・ 旅行業界売上 : 前年同期比 約7%増 特にインバウンド業務はW杯影響で18%増加。
- ・ ホテル業界 : ビジネス客減少したが、レジャー利用客アップし前年同期比約10%増、W杯開催都市の稼働率大幅増加。
(Rioは稼働率98%)

2014年下期展望

- ・ 国内・国際線 : W杯終了に伴いビジネスリップの回復期待。
- ・ 国内旅行 : 需要は継続するものと予想。
- ・ ホテル業界 : ビジネス客の増加期待、大統領選挙でどの様な影響が出るか不明。

課題 「観光地インフラ整備が必要」

「治安の改善」

「ブラジルの物価高」



ワールドカップ関連トピック



- ・ W杯開催期間中のホテル、輸送車両の高額販売が騒がれたが、実際には開催地以外はホテルの稼働率は見込みを大幅に下回るなどの影響で通常それ以下の料金となっていた。
- ・ 但し、開催都市のホテル、レストラン、輸送車両の料金は異常と思われるほど高騰。
- ・ W杯はブラジルのイメージアップに大変良い効果を与え、ブラジル人の温かい人間性、ホスピタリティーが評価された。
- ・ 空港のインフラ問題、心配されたセキュリティー等に関しては、幸い大きなトラブルもなく終了する事が出来た。

通信業界

2014年上期回顧

- ・ ブラジルの通信面での米国依存を減らすための施策が相次ぎ実施され、伯/EUはリスボンとフォルタレザを結ぶ海底通信ケーブル敷設で合意。
- ・ インターネットへの平等なアクセスと国内ユーザーのプライバシーを保障する「インターネット憲法」法案を上院で可決。<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/3892>
- ・ ブラジルの上期のモバイルブロードバンド接続数は161百万件と、前年同期比51%の増加。過去12ヶ月間で54百万件の新規接続があり、特に4G接続はワールドカップの影響で急増した。

2014年下期展望

- ・ 4G設備の拡大により、4G加入者のさらなる増加が期待される。
- ・ モバイルデバイスの増加により、データ通信全体の発展がさらに促進。
- ・ 一方で、技術者不足、人件費の高騰で、優秀なIT人材の確保は困難。



ワールドカップ関連トピック

- ・ ワールドカップ開催エリア、会場については、WiFi等、モバイル向け通信インフラの増強が行われ、各通信オペレータが当局(ANATEL)から出された要求に沿って十分な通信インフラを整備したことにより、世界記録となる膨大なトラフィック(Face Book/Twitter)に対応できたことを示した。
- ・ 8KスーパーハイビジョンによるパブリックビューイングにNTTのIP伝送技術を利用、ブラジル-日本間(約1万8000km)でのライブ映像伝送に成功。2016年リオで開催される次夏季オリンピックに向けての先行実験の位置づけとされた。

日本代表キャンプ地メディアセンターにおける中継にも同IP伝送技術が利用され、従来の衛星よりも高速かつ低遅延な中継ネットワークを実現、今回のワールドカップの実績を通じて、海外からのIP伝送の可能性を新たに世界に提示することができた。



IT業界

2014年上期回顧

- ・ 新規日系企業進出に関わる案件は減少。
- ・ 既存企業の規模拡大に伴う企業内ICT環境増強ニーズは継続。
- ・ W杯の影響でプロジェクト進行遅延、ビジネスに影響は及んでいない。
- ・ アウトソーシングサービス(ITO、BPO)は比較的堅調。
 - ・ ICT - Information and Communications Technology
 - ・ ITO - Information Technology Outsourcing
 - ・ BPO - Business Process Outsourcing

2014年下期展望

- ・ 大統領選を見越したIT投資の抑制、様子見が継続すると予想。
- ・ アウトソーシング・サービスの需要は引き続き期待する。
- ・ IT業界内の再編や合従連衝の加速。
- ・ コモディティ化したICT要素(メール、共有サーバ等)はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型へシフトが進む。

ITインフラの充実、優秀なIT人材の確保が大きな課題

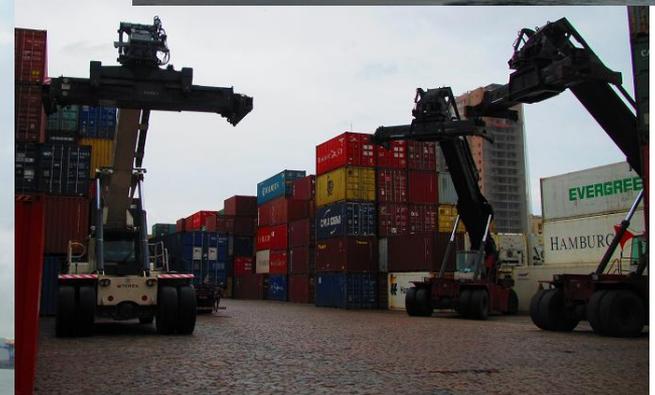
サントス港見学会のお知らせ

・【世界有数の貿易港サントスを海上より視察】

□ 日時：2014年10月24日(金)7:15～16:00 ・(予定)

□ 内容

- サントス湾港を海側より見学
- 現地レストランにて昼食





ご清聴ありがとうございました。



BTP コンテナ・ターミナル/SANTOS



EMBRAPORT コンテナ・ターミナル



GRU Aeroporto TC - 3

